

豊明市補助金等検討委員会 議事録（第四回）

日時 平成25年11月5日(火)

午前13時30分～15時00分

場所 豊明市役所 本館3階 第2会議室

出席委員(5名): 小野田委員・高田委員・亀倉委員・西原委員・三矢委員

事務局(5名): 石川市長・小浮副市長・伏屋行政経営部長・吉井財政課長・伊藤財政課長補佐・山本主査

傍聴人: なし

1. 市長あいさつ

公開又は査定診断というかたちで、委員の方々に7つの事業を検討していただいたが、我々には今後、残された事業をどの様に整理するかという課題がある。この報告会ではその道標となるものが示していただければ幸いに思う。事業仕分けやこの検討委員会が今後の豊明の行政にとって大きな起点となっていくと思っている。

2. 議題

議題1. 報告書案検討

(委員長) それでは、報告書案の最終検討を行います。本日用意した案は、これまで3回程度委員の皆さんにご協力いただき、書面により意見の集約を図ったものです。委員会での議論を集約した案となっていると思いますが、修正や加筆を含めて、よりよい提言を残したいと思うので、議論していきたいと思えます。

事務局より、報告書について説明はありますか。

(行政経営部長) それでは、簡単に概要をご説明します。案として本日も検討いただく内容は、お手元の報告書の内容となります。報告書は4つの章立てとなっています。

一つ目は、検討委員会による検討の過程を記しています。ここでは先ず検討委員会の議論の背景やねらいを示し、査定診断、公開診断を含む四回にわたる検討委員会や、関連して行った全補助団体対象の説明会、公開診断対象団体との意見交換などの記録とその意図を記しています。

二つ目は、今後の豊明市が引き継ぐべき進行管理のための基本原則を提言として示している部分です。ここでは、診断の視点として物差しをお示しいただき、判断基準と結果の類型を記しています。また、今後の進行管理が自律性をもって継続化できるように、全体のスキームと補助団体、担当課それぞれの自己診断の内容、また財政当局が担う客観診断の内容を示していただいています。

三つ目は、補助金の実態として、補助金の代表的なものに対して行った査定診断と公開診断の結果を意見提言の記録とともに記しています。

四つ目は、資料編としての記録となっているものです。
以上で、概要の説明を終わります。

(委員長)委員の皆さんは、既に何度も検討していただいた内容ではありますが、最終の検討機会です。報告書の修正等ありましたらお願いします。

(委員)P10の(1)で「自立化と民営化の可能性を求め。」とあるが、民営化という言葉はどういうイメージのものなのか。また、ニュアンス的にどうなのか。

(行政経営部長)民営化については、委員からのご指摘による箇所だと記憶しておいます。私どもが考える民営化についての可能性は、例えば、有松から瀬戸までミニツアーの観光ルートを開発する等、観光協会で作るより民間の旅行会社等に委託した方が効率的ではないかというような可能性を示していると理解をしています。

(副委員長)ほぼそういうことです。ただ、豊明市がどこまで観光化するのかということもあるが、民営化には少し早すぎる気がするので、民営化に至る経路を示したり、指導ができると思い。

(委員長)例えば、財団法人化して期限付き職員を採用し、観光を盛り上げてもらうというような動きをしている地域もある。そういった、色々なパターンを検討して欲しいということではないかと理解している。

(委員)私のイメージでは、行政の一部が株式会社になるというのが民営化というイメージがある。おっしゃられるのは民による運営ということだと思うので、民営化という表現では誤解を受けるのではないかと。財団法人にするなら法人化であるし、民が中心になって行うのであれば民による運営というような表現がよいのではないかと。

(委員長)民営化という文言について訂正やご提案があれば、ご意見をお願いします。

(副委員長)確かに、一般的にはそういった誤解を受けてしまうと思うので、文言だけ変えてはどうか。

(行政経営部長)「自立化」という文言に合わせるのであれば、「法人化」はどうか。

(委員長)それでは、「自立化と法人化の可能性を求め。」に文言を修正します。

(委員長)他に報告書に対するご意見はありますか。

(副委員長)P5 参加者質疑の内容で、「私たち補助団体は、何をすればよいか、何を求められているのか。」という文章が冒頭にあるが、受身的な発言から始まっているのがどうなのか。

(委員)これは、補助金をどう使うかという意味ではなく、集まったことに対して何をすればいいのかという意味でよいのか。冒頭に少し付け加えれば誤解を受けないのではないか。補足ができるのであればした方がよいと思う。

(委員長)参加者質疑の前に何か説明をされていて、それに対するご質問ではないかと思われるので、何か少し加筆をするとわかりやすいのではないか。

(副委員長)参加者質疑の2行上の「このような視点で、活動を見直し、担当課とも話し合いを進めていただければと考えている」という部分を参加者質疑の最初にもってきたらどうか。

(委員)確かに、最初に説明を入れることで、市による補助金全体の概要説明を受けての質疑であるということがわかるようになる。

(委員)概要説明の最後「考えている」の後に、「これに関して何かご質問はありませんか。」という文言を入れてはどうか。

(委員長)そういうことでよろしいでしょうか。

(委員長)では、概要説明の最後に「これに関して何かご質問はありませんか。」という文言を付け加えることとします。

(委員長)他によろしいでしょうか。

(委員長)以上で、報告書を確定したいと思います。

議題2. 報告

委員長より市長に報告。

議題3. 意見交換

(委員長)本委員会を振り返り、市に対する意見や、委員相互に意見交換をして会を閉じたいと思

います。

(副委員長)現状の分析も大切だと思うが、将来のためにということがあったので、診断基準の中に「地域性」と「協働性」というのを付け加えた。それをどう考えるかは課題だと思うが、考えるということが連携するときに役に立ってくると思う。

今の行政は色々なところと連携をとりたいと思っているが、縦割りで行われてきた中での連携は難しい。予算を見ると関連する交付金がいくつかあるが、担当課が違ったり、交付の開始時期が違うために1本化できないのだと思う。将来のことを考えると、同じ豊明市でもいくつかの地区に分けて、それぞれの地区の特性を活かして物事を進めないと、自主性や自治意識がでないのではないか。そういうことのために「地域性」があるかということで付け加えた。

また、何かをやるときに、どこかと手をつないでやりましょうという意識を持ってほしいということで「協働性」を付け加えた。

もう一つは、職員に対しての研修も必要ではないかと思う。メンバーだけが考えるのではなく、他の人も巻き込んでやるという流れを作れるようになることを期待している。

(委員)学生が豊明を題材にした映画を NPO の方々と協同で上映した際に、市のサポートを受けたり、NPO の団体の方々と関わったりすることで、豊明市には素晴らしい方々や組織が存在するということを認識している。

今後、豊明市が発展していくために必要なことは、キーワードで言うと「オープン化」ではないかと思う。「オープン化」とは情報共有のことであり、市は非常に多くのネットワークを持っているので、民間とネットワークを上手に構築しながら、現場の情報を共有しつつ適切なビジョンを形成していけるのではないかと思っている。

今回の委員会を通して、市と各補助団体とのネットワークがきちんと作ってこられていることが確認できた。次のステージに上がるためには、補助団体等が横のネットワークを広げていくことが必要である。そうすることで補助団体の自立的な活動が行われていき、そういった活動に対して市からの助成や補助が積極的であってもよいのではないかと思う。

老若男女問わず、自らの役割と位置づけや、豊明市の中での存在感・存在価値をもって活動して欲しい。特に助成を受けている団体は市民の税金を使わせていただいているという緊張感を持って、前を向いて活動するという様な取り組みをして欲しい。そのような取り組みができれば、今回の補助金等検討委員会の意義になるのではないかと考えている。また、それが市長の話しておられる「新しい公共」につながっていくとよいと思う。

(委員)今回、公開診断を行ったことにより、補助団体にとっては意見を言える場になったと思われるし、我々もどんな取り組みをしているかということが理解できたので、非常にありがたかった。何年後かに同じような取り組みや見直しをしていただくと期待している。

報告書の15ページ以降、診断結果のうち、取り入れることができるものとそうでないものがあると思うが、それぞれの意見について実現可能性があるのかどうかをもう一度検討して欲しい。そして、

取り入れることができるものは取り入れていただければ、我々が話し合ってきたことが生きてくるのではないかと思う。

(委員)まず一つ目に、第三者が関わったことによる議論の活性化があったと思う。第三者だからこそ思い切った発言ができたと思う。裏を返せば、今回の査定にあらなかった残りの事業については市が行わなければならないので、行政と補助団体だからこそ難しい部分があるのではないかと思う。そのところはまた、新しい知恵がいるかもしれない。

二つ目は、公共が踏み込んで更にサポートする領域と、むしろ自立を促す領域はどちら辺なのかという議論がとても考えさせられた。例えば学童保育では、運営上の補助は出ているが、ハード面は全く行き届いていないので大変だと思う。そこで、公共がどの様なものに注力すべきか、ということに対して、いくつか思うことがある。まず一つはスケールメリットの議論がある。名古屋市のように大きい都市であれば学童保育の数も多いので、スケールメリットを活かして民業だけでできる部分もある。しかし、豊明市の場合は数も少ないので、スケールメリットが効かない中で運用するには、一定の公共の支えが必要だと思う。もう一つは、経済活性化について行政がどこまで、どの様に関与するかということは難しい議論だということがわかった。あえて挑戦的に言うのであれば、各団体が民間活力によって、儲けるところは儲けるといっても大事そうだという印象もあった。そういう意味で公共がどのあたりを担うべきなのかについて学びがあった。

最後にもう一つ、行政職員に向けた人材育成のやり方について、新しい仕掛けが必要そうだという印象を受けた。キーワードとして「手続きから哲学へ」というのがある。例えば、区長宛の手続きのマニュアルは山ほどあり、区長さんたちはそれに振り回されてしまう。しかし、地域を元気にしようと思うなら、むしろ哲学的な部分、つまり、地域をどうしていったらいいかという議論を起こす能力が行政の職員に求められるのではないかと思う。やはり、これからは行政がお金を出す、出さないという議論を超えて、地域をどうしていくのかということに意識を持てる職員を増やしていくことが大切ではないかと思う。

(委員長)行政経験者として感じていることは、補助金の総点検という発想は職員からは出しにくい時代だと思うので、市長の強いリーダーシップを感じた。

自分も職員だったので、補助金はどちらかという意識があった。しかし、補助金を受ける団体の長をやってみて感じたことがある。例えば敬老会で案内を配ることによって、今まで顔と名前がわからなかった人や、地域に住む人の状況がわかった。それによって、自分の地区に高齢者の方が何人いるか、災害時に何とかしなければならない人がどれくらいいるのかがわかる等、地域のことは地域の人をお願いすることで、新しいことにつながるとことを知った。補助金にはそういう力もあるのではないかと思う。うまく補助金を活用できれば、地域の活性化にもなる。また、地域の方々に生き生きと活動してもらえそうな仕組みを作っていくとよいと思う。

(委員長)ありがとうございました。

これをもって事務局に進行をお返しします。

3. 市長よりお礼の挨拶

全4回という短い中で、非常に密度の濃いお話があったということを感じている。今後、経営戦略会議の中で一度きちんと整理をさせていただき、市民の皆さんにはこの議論をお伝えしていきたい。そして、この中身についてもう少し理解を深めてから、部課長には今後のあり方を整備させていただきたい。ここからが課題だと思うが、残った事業について先ほど色々ご指摘をいただいたが、職員も残った事業を整理しながら力をつけていくということが基本である。最終的にはすべての補助金のあり方、補助金の性質とはいったいどういったものか等、きちんと分析することであらゆるやり方がたくさん見えてくるのではないかと思われる。そうしたことも含めながら一度整理をしていきたい。

今回、議論いただいた委員の皆様には、是非、今後も何かの機会に色々お願いしたいと思っている。そしてまた、手厳しいご指摘やご意見をいただければ幸いです。

40周年のテーマが「豊明市のいいところ再発見、創造」です。全国に遅れをとってはいないかと、先進例をみると焦りも生じるが、これから一步一步確実に職員が、小さな芽ではありますが、作り上げてきている現状がある。行政運営の在り方も変え、自立した職員が生まれるようにしていきたい。私自身も含め地域入って行動していけるようにしなければならない。人の温かさや、コミュニティが生きており、そこに光が当たればポテンシャルになる。医療を核にすれば健康都市になっていく。それをきちんと前に進めていきたいと思っているので、そういう意味では今後もお力添えをいただきたい。また、わずかな時間で本当に大変な作業量をお願いしてしまい、心より感謝を申し上げます。

以上